



【石川 ほなみ さん】 富士/千歳北陽高校3年生
●高校では写真部に所属。北海道高文連石狩支部写真展で、2年連続して作品が「準特選」に輝き、全道大会に選出された。

レンズを通して記憶を残す
その一瞬を逃さない。



『空』を撮影した写真の一枚

青

空と雲の調和が織りなす晴天の空やオレンジ色に染まり刻々とその色を変える夕焼けの空。「一瞬として同じ景色にはならない『空』の写真が好き」と明るく語る高校生。

北陽高校写真部の部長を務め、数々の写真展で入賞するなどの活躍を重ねる石川さん。写真を撮るようになったのは、今から5年前のことです。

ほかの人と違うことがしてみたいという性格で、中学校へ入学するとき、母親からのお祝いに「携帯電話かカメラ」の候補から、カメラを選びました。

それ以来、出かけるときにカメラは必需品で、写真を撮ることを目的に家族でよく出かけています。

「写真は、大切な思い出をいつまでも

忘れることなく、好きなときに振り返って見ることができると石川さん。

偶然出会った風景にカメラを向けることもあれば、事前に頭の中で想像してから撮影に臨むこともあります。納得するまで夢中でシャッターを切り、時間をかけて撮影します。「家族と出かける時、わたしだけ途中で置いて行かれてしまうんです」と笑います。

写真部顧問の横内先生は「カメラを向ける視点の幅広さや撮影技術など、才能があります。あわせて、雑誌を見て考えたり、たくさん撮影したりして、何気ない努力を重ねていること、なによりも『写真が好き』という気持ちが素敵な作品を生んでいます」と話します。

写真部は、撮影作品を写真展に出展

しているほか、入学式など校内で行われる行事の撮影も担当しています。

「1年生のときは人前での撮影が苦手でした。今は、部が任されている責任を果たすため、積極的に前へ出て、写真の角度など、撮り方にも気をつけて撮影しています」と石川さん。

写真部員として最後の一年。「今年の目標は、5人の部員で支え合い、全員の作品が高文連写真展の全道大会に選出されることです」と力強く話します。

「もちろん、高校を卒業してからもカメラは持ち続けます。好きだけど難しい『空』を撮影した写真で作品展に挑戦し、入選できたら嬉しいですね」と澄み切った青空のように晴れやかな笑顔で語ってくれました。

人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE



石川

HONAMI
ISHIKAWA

ほなみ

さん